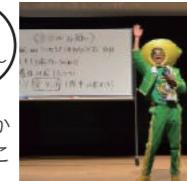


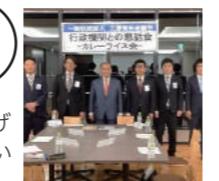
三原青年会議所はどんな活動をしてる?2019年をプレイバック

5/5 子育ては親育て
～みんなの心が軽くなるレモンさんの子育てビタミントーク～



10/15

行政機関との懇話会
～カレーライス会～



対面でのコミュニケーションが子どもの育成にどのように必要かまたどう影響があるのかを考えいただき、取り入れていただくことで心づかいを育むことを目的に講演会を実施しました。

11/16 JUST DO IT
～親子で育まれる絆と宝～



11/18

笑って学ぶSDGs



子どもたちの原体験する機会が減少傾向にある背景を踏まえ実際に親子で体験活動を行うことで原体験の必要性・重要性・楽しさなどに気づき日々の子育ての中により多く原体験を取り入れていただくことで思いやりの心を育成する事業を行いました。

2020年の活動予定をCheck!!



皆様はeスポーツというものをご存じですか。昨今、ニュースやSNSなど様々なメディアでeスポーツを目にする機会が多いと思います。eスポーツは「エレクトロニック・スポーツ」の略称で複数人のプレイヤーで対戦するゲームのことを指します。アメリカや韓国では正式なスポーツと認知されており、プロゲーマーはサインを求められるほど市民権を獲得しています。今後この新しいスポーツがオリンピック種目に加わる可能性や、世界中でさまざまな大会が開かれるなど大きなムーブメントが起こっています。ちなみに世界の競技人口はどのくらいでしょうか? サッカーは2億6500万人以上、野球は3500万人といわれています。なんとeスポーツの競技人口は1億3000万人以上!! 大きな市場ですが、日本ではまだeスポーツが全体的に認知されたとはいえない状況です。しかし土壌が固まっていない状況だからこそ今後三原のまちが活性化していくチャンスがここにあるのではないかでしょうか。ポーランド南部のある都市。人口30万人の地方都市が、年に1度3月にeスポーツの世界大会が開催され大会期間中、約17万4000人が会場へ訪れました。三原のまちでeスポーツの大会を開催して大きなムーブメントを起こしていくことで、市外・県外・国外から多くの人々が訪れてくるのではないでしょうか。そうすれば三原のまちは多くの人でぎわい、活気に溢れると思います。何より、eスポーツの主役はやっぱもっさ新聞1月号を読んでいただいている、そのあなた! そう、皆様が三原のまちで活躍することで活気が溢れまちに広がっていくでしょう。

高校生が議会でまちづくりを提案!! みはら高校生議会



2016年、若者の意見を反映させるため参議院選挙から選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、三原においては2017年4月の三原市長選挙及び三原市議会選挙から適用されました。適用にあたり、各学校で主権者教育が行われ主権者教育(※1)を積極的に受けてこなかった年代と比べ投票率が高くなっている一定の効果はあったものの他の世代に比べると依然投票率は低い状況でした。そこで三原青年会議所では有権者となる前の段階から体験を通じた主権者意識の向上を図ることで、質の高い投票率の向上へつながり、未来を担う若者の意見を政治に反映することが出来ると考え、事業を行いました。三原市内各高等学校生徒の皆様を対象に学校ごとに7名のグループを作り三原の問題点を調べ課題解決を考え議案書を作成していただきました。そして10月にゆめキャリアセンター市議会仮庁舎にて2017みはら高校生議会が開催。学校ごとに発表者と質問者に分かれ高校生が議員に扮し、自分たちで考えたまちの課題や問題点に対する要望等について議会で発表を行い、その議案書について投票をしていただき実際の議会を体験していただきました。議長役に三原市議会議長 仁ノ岡 範之様のもと「郷土愛あふれる三原にするために」「三原市の中心市街地を活性化するために」「人財の地産地消～陸・海・空の交通利点を活かして」と4つの議案が上程され、活発な議論が行われました。実際に参加された高校生の皆様からは、「貴重な経験が出来た」「三原のことをより知ることが出来た」「政治に対して興味や関心を持った」など明るい意見をいただきました。

(※1 主権者教育とは社会で起きている出来事について自ら考え、主体的に行動できる人間を育成するための教育。また、若者が有権者として政治に参加するための政治的教養を育成すること)

次回の2月号は成人を迎えた新成人の皆様にインタビュー!!お楽しみに!